

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子

No.704

★公益社団法人 読書推進運動協議会 定時総会(1~4頁)

公益社団法人

読書推進運動協議会

2026年度 定時総会

読書環境をとりまく今日的な課題に対し 推進運動の現場を大切に事業を展開していく

6月22日(月)午後3時より、東京都千代田区の出版クラブビルにおいて、「公益社団法人 読書推進運動協議会 2026年度 定時総会」が開催された。

野間省伸会長の挨拶のあと、定款第16条の規定により、野間会長が議長席につき、議事を進行了。最初に事務局より、今回の出席会員は35名、委任状提出会員は151名、合計186名であり、定款第17条の規定による定足数、総会員の過半数132名を超えたので、総会は成立していることが報告された。

定款第20条の規定により、総会の議事録記名押印者として、野間会長、成瀬雅人常務理事、佐藤潤一理事の3名が指名された。

第一号議案は、『2025年度



総会風景



櫻井監事による
監査報告

事業報告書および決算報告書承認の件」。「2025年度 事業報告書」について、齋藤健司事業委員長に代わり、佐々木泰事務局長から報告が行われた。つづいて「2025年度 決算報告書」について、田中幹弘財務委員長に代わり、佐々木事務局長から説明が行われた。その後、監事を代表して櫻井秀美監事が、本決算は公正かつ正確であることを証するとの監事報告を行った。議長は出席会員に語り、それぞれ全員異議なく承認可決された。

第二号議案は『役員交代』承認の件。佐々木事務局長が、今回は改選期ではないが、一般社団法人教科書協会より同会の会長交代にともない、小田良次理事が退任し、後任候補として吉田直樹氏の推薦の申し入れがあったことと、公益社団法人 伊藤忠記念財団の人事異動に伴い、池辺昌和理事から上床憲司氏への引継ぎの申し送りがあったことを説明した。

野間議長による挨拶で総会は閉会したが、その後、別室にて2026年度 第2回理事会が開催され、定款第32条により新役員の役職が選定された。理事会終了後に総会会場で、新役員の役職分担が議長より報告され、すべての議事を終了した。

第三号議案は『2026年度事業計画書および収支予算書』報告の件。『2026年度 事業計画書』と『2026年度 収支予算書』については、佐々木事務局長から説明があり、いずれも、2025年度 第3回理事会で承認されたことが報告された。議長は出席会員に語り、全員異議なく承認された。



役員に就任した吉田直樹氏 (左)
上床賢司氏 (右)



■挨拶

公益社団法人
読書推進運動協議会

会長 野間 省伸



本日はお忙しい中、公益社団法人読書推進運動協議会、2026年度 定時総会にご出席いただき、ありがとうございます。

現在、全国の読書推進運動は活発な活動を展開しております。昨年度、秋の「読書週間」の行事主催者数は、2061と初めて2000を超え、過去最高を記録いたしました。今年春の「こどもの読書週間」でもこの状況は継続し、各地の読書推進運動協議会から、「読み聞かせ」や「おはなし会」など、子どもたちに向けた多彩な行事の報告をいただいているところです。

また、読書推進運動協議会に事務局を置く「子どもの読書推進会議」が、主催団体のひとつとして参加しております。「上野の森親子ブックフェスタ2026」は、

今年も5月4日、5日の2日間、

上野公園で開催いたしました。好天にも恵まれ、昨年を上回る来場者数、書籍売り上げを記録いたしました。各出展ブースでは著者サイン会なども多数行われ、親子で紙の本を手に取り、人とふれあうことの楽しさを実感することができました。

いっぽう、トラック新法による物流問題、無書店自治体の増加、公立図書館の統廃合など、いまの読書環境には多くの課題があります。

す。このような状況だからこそ、私たち読書推進運動協議会は、従来にも増してすべての方に本と親しむきっかけを提供してまいります。

今後ともみなさまのご支援とご協力をお願いしまして、ご挨拶いたします。



総会議事を進行する野間会長



2025年の「読書週間」ポスター

■2026年度 事業方針

読書推進運動協議会がない 都府県への働きかけも強化

読書推進運動協議会は、読書活動の推進と出版物の普及により、わが国文化の発展と向上に資することを目的として1959年に設立されました。

現在、読書推進活動は、全国で活発に行われております。春の「こどもの読書週間」、秋の「読書週間」における行事主催者数も上昇傾向であり、読書会、読み聞かせ会、ワークショップなどバラエティあふれる活動が各地で展開されています。本を介して人と人が直接対面し価値観を共有するという、読書推進運動の基本が、デジタル全盛の時代にあらためて注目されています。

「こどもの読書週間」「読書週間」の標語は、会員社のみならず、全国の図書館、そしてホームページで一般の方々にも呼びかけて募集しています。とくに販売会社や出版社には事業委員として深く関わっていただき、それぞれの社員の方からたくさんのお声をいただいています。2026年春の「こどもの読書週間」の標

語は「ことばがきみのはねになる」に、今年80回を迎える秋の「読書週間」の標語は「静かだけど、冒険中。」に決定しました。ここ数年は、図書館だけでなく、行政や教育現場のかたがたからポスター画像の使用について、問い合わせが増えてきました。読書推進運動協議会の「X」も効果的に活用しながら、事業の認知度をより高めていくようにいたします。

「読書週間」は、ポスターのイラストも一般から公募しており、2016年からは標語にあわせてイラストを公募し、標語と親和性の高い力作が多く寄せられています。また「こどもの読書週間」のポスターにつきましては、2023年より子どもたちにも人気のある新進の絵本作家ユニット、ザ・キャビンカンパニーさんを起用し、好評を得ております。

私ども読進協の事業の基盤は、永年にわたって構築してまいりました、読書推進活動に携わる現

公益社団法人 読書推進運動協議会 2026年度役員構成

順不同・敬称略

会 長	野間 省伸	日本書籍出版協会 (講談社社長)
副 会 長	奥村 景二	日本出版取次協会 (日本出版販売会長)
同	植松 貞夫	日本図書館協会 (同理事長)
常務理事 (財務委員長)	田仲 幹弘	日本出版取次協会 (トーハン副社長)
同	齋藤 健司	日本書籍出版協会 (金の星社社長)
同	成瀬 雅人	日本書籍出版協会 (原書房社長)
同	矢幡 秀治	日本書店商業組合連合会 (真光書店社長)
同	野口 武悟	全国学校図書館協議会 (同理事長)
同	飯窪 成幸	日本雑誌協会 (文藝春秋社長)
理 事	森 茜	日本図書館協会 (同顧問)
同	岡本 功	日本書籍出版協会 (ひかりのくに社長)
同	吉田 直樹	教科書協会 (光村図書出版社長)
同	渡部 正嗣	日本出版取次協会 (日教販社長)
同	佐藤 潤一	日本書籍出版協会 (福音館書店社長)
同	上床 憲司	伊藤忠記念財団 (同常務理事・事務局長)
監 事	春井 宏之	日本書店商業組合連合会 (正文館書店社長)
同	櫻井 秀美	全国学校図書館協議会 (同常務理事・事務局長)
同	鳥塚 尚子	日本国際児童図書評議会 (同事務局長)

事務局長 佐々木泰

場のみなさまとの強固な絆です。読書週間事業の一環として行われている、全国の読書推進運動協議会の推薦をもとに選ばれる「全国優良読書グループ表彰」と、永年にわたって読書の普及に貢献された団体と個人を表彰する「野間読書推進賞」の顕彰事業は、関係団体や各道府県の読書推進運動協議会との緊密な協力関係のもとに推進しています。

全国の読書推進運動協議会から寄せられた推薦図書をもとに作成する、約18万部の「若い人に贈る読書のすすめ」と、約14万部の「敬老の日読書のすすめ」のリーフレットは、今年度も関係の団体を通じてお配りしていきます。

「こどもの読書週間」のしおり、ポップなどの素材データの配信も好評をいただいております。さらに魅力ある素材の提供に取り組んでいきます。前述の「X」とあわせて、読書推進運動のさ

ます。学校や図書館からの問い合わせが多いのは、積極的に活用されている表れだと思います。機関紙『読書推進運動』は、これまでと同様に事業の紹介、関係団体・機関のニュースを中心に紙面づくりを心掛けます。「優良読書グループの歩み」やこれまでの野間読書推進賞受賞者の活動など、読書推進運動の現場を積極的に紹介してまいります。

ホームページでの「読書週間」「こどもの読書週間」のしおり、ポップなどの素材データの配信も好評をいただいております。さらに魅力ある素材の提供に取り組んでいきます。前述の「X」とあわせて、読書推進運動のさ

用されています。学校や図書館からの問い合わせが多いのは、積極的に活用されている表れだと思います。

な、年々ポスター、リーフレットの需要が高まる一方、昨今の物価高騰により、印刷費や郵送料など事業に要する経費も上昇してきております。事業費が収入を上回る決算が続いております。このような状況に鑑み、読書推進事業の継続性を維持するために、会員社への寄付のお願いのほか、80回の「読書週間」のタイミン



2026年の「こどもの読書週間」ポスター

書推進運動協議会があり、読書推進運動協議会のさまざまな事業を行っていくにあたり、連携を強め、多大な協力をいただいています。しかし、読書推進運

動協議会のない都府県が、7つあります。こうした都府県にあためて働きかけ、事業の活性化をはかっていきます。

公益社団法人 読書推進運動協議会 2026年度事業		
名 称	期 間	内 容
2026 第80回 読書週間	10月27日 ～ 11月9日 (14日間)	・標語とイラストを募集、標語選定事業委員会とイラスト選定事業委員会にて決定し、ポスター約5万枚を製作 ・雑誌広告を作成。日本雑誌協会を通じ、雑誌出版社に掲載協力を要請 ・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・「文字・活字文化の日（10月27日）」「BOOK MEETS MEXT」との連携 ・全国優良読書グループ表彰の実施 ・道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
2026 第68回 こどもの読書週間	4月23日 ～ 5月12日 (20日間)	・標語を募集、標語選定事業委員会にて決定し、ポスター約5万枚を製作 ・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・「子ども読書の日（4月23日）」「上野の森 親子ブックフェスタ」と連携 ・道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
第56回 野間読書推進賞	贈呈式は 11月6日	・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、都道府県教育委員会、関連団体などに受賞候補者の推薦を依頼 ・事業委員会を経て、選考委員会で受賞者を決定 ・読書推進運動に功績があった団体および個人を顕彰（2団体2個人が基本） ・贈呈式は「読書週間」期間中に開催
2026 敬老の日 読書のすすめ	敬老の日を 中心に	・高齢者を対象とした選定図書目録のリーフレット約14万部を製作 ・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、書店、会員社などへ送付
2027 若い人に贈る 読書のすすめ	1月～3月	・新成人、高校・大学の卒業生を対象とした選定図書リーフレット約18万部を製作 ・道府県読書推進運動協議会、公共図書館、高校・大学の図書館、書店、会員社などへ送付
機関紙 『読書推進運動』	毎月	・機関紙『読書推進運動』を毎月発行するほか、別冊付録を年2回発行 ・発行部数 約5500部 ・道府県読書推進運動協議会、会員社、公共図書館、関係団体などに送付
公式ホームページ 協議会 SNS (X)	毎月2回更新 (Xは随時)	・団体情報の発信 ・機関紙バックナンバーの掲載 ・図書館、学校、書店の展示用に、各種事業のポップ・しおりなど新規素材のデータ配信を行う ・会員社、公共図書館、関係団体などとのコミュニケーション強化
受託、共催、後援、協賛		・「子どもの読書推進会議」の事務局を担当 ・「伊藤忠記念財団」の文庫助成事業の受託 ・関連団体と読書推進事業を後援、協賛、協力

■学校図書館賞・学校図書館出版賞

子どもたちの学びをサポートする
実践と出版物を表彰

公益社団法人 全国学校図書館協議会（全国SLA）は、「第56回学校図書館賞」と「第28回学校図書館出版賞」の受賞者を発表した。

学校図書館賞は、学校図書館の振興に著しい業績を示した個人および団体を顕彰するもので、毎年公募している。

【第56回学校図書館賞】

●学校図書館賞

・実践の部

柴田陵子

〈事出〉

「探究的な学びを支える学校図書館」

荒川区立第三日暮里小学校

〈事出〉

「図書館活用教育を中心にした教育課程の編成」思考力・表現力・語彙力を高めるために」

（論文の部、運動の部は該当なし）

学校図書館出版賞は、学校図書館向き図書の良い出版企画に対して出版社を顕彰するもの。2025年5月〜2026年4月

末日に発行された図書（シリーズの場合は期間内に完結したもの）で、全国SLAの選定図書となったものが、今回の選考対象となった。

【第28回学校図書館出版賞】

●学校図書館出版賞

株式会社 小峰書店

〈事出〉

『みんなで考えよう！日本の自給率』柴田明夫監修（全5巻）の刊行

株式会社 汐文社

〈事出〉

『みんなで「できる」をめざすくふう 学校の合理的配慮』羽生裕子監修（全3巻）の刊行

株式会社 ほるぷ出版

〈事出〉

『季節まるごと！理科のことも歳時記』303BOOKS編著（全4巻）の刊行

（学校図書館出版賞大賞は該当なし）

表彰式は両賞同時に、7月2日（休）に開催された。

■親地連 記念講演会

翻訳作品ならではの伝える力を
子どもたちへ

親子読書地域文庫全国連絡会（親地連）は6月13日（土）、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）で、第29期総会と記念講演「知識こそ力——知る」から「考える」「へ」を開催した。

講師は、翻訳家の原田勝さん。第二次世界大戦が舞台の『ぼくの心の闇の声』（徳間書店）『ヒトラーと暮らした少年』（あすなろ書房）や、湾岸戦争を取りあげた『弟の

戦争』（徳間書店）、シリア内戦をテーマにした『シリアの秘密の図書館』（くもん出版）、人種差別とたたかいたを描いた『ハーレムの闘う本屋』（あすなろ書房）など多くの翻訳作品を紹介した。

戦争や差別を扱う作品を手がける理由として原田さんは「戦争がどうして起こるのかを伝えるには、読者が自分のこととして考えられるよう物語が必要」「戦争や社

■NPOブックスタート

多様なルーツの人たちへ
ブックスタートをやさしく紹介

NPOブックスタートは、在留外国人へのブックスタート周知の一助として、「やさしい日本語版ブックスタート紹介シート」を作成、PDFおよびWordデータの提供を開始した。

NPOブックスタートでは、これまでブックスタートの趣旨を11言語（英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、ネ

パール語、ヒンディー語、インドネシア語）に翻訳した「多言語対応ブックスタート紹介シート」を提供してきたが、近年の在留外国人出身国・地域のますますの多様化を受けて、新たな手引きの必要性が生じたという。

「やさしい日本語」は、ふだん使われている日本語を、文法や語彙のレベル、文章の長さなどに配慮し、日本語を母語としない人にも

会のことを考えずに大人になる人が多いのが怖い。YAや児童書はストリートに物語を伝えてくれるので、若い読者にも大人にも有効」「日本とは異なる文化、生活の海外作品を読むと、主人公ほかキャラクターを客観的に見られるので、本質が見えやすい」と述べた。

また、「翻訳出版は翻訳家による持ち込みが多く、その結果、依頼されるジャンルも決まってくる。図書館の書架は作家別だが、翻訳家別に並べると訳者の人となりがかつて、おもしろいのではないかと、翻訳家に注目しての「読書のすすめ」も紹介した。

わかりやすいように工夫されたもので、外国人への情報伝達手段として採用する自治体も増えている。

紹介シートでは、ブックスタートは自治体を実施するサービスであること、絵本を無料でもらえること、赤ちゃん絵本を読んでもらうことが大好きなこと、わからないことはスタッフに聞けること、などが書かれている。

紹介シートデータのダウンロードは、左記のアドレスより可能。

●NPOブックスタート

<https://www.bookstart.or.jp/6440/>

優良読書グループの歩み (7)

2025年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

本の輪

代表者 久保田清子

埼玉県幸手市

〈推薦〉

埼玉県読書推進運動協議会

「本の輪」は新設された小学校の保護者会で知りあった本好きの人たちにより始まりました。1989年11月に城山三郎著素直な戦士たち」をテキストにスタートしました。

以来36年が経ち、現在70代から80代の女性ばかり12名で活動しています。

月1回、第20曜日の10時から12時まで、近々のコミュニティセンターを会場に例会を開いています。代表者を置かず、司会進行や月ごとの選本などを、メンバー全員で順番に担っています。

テキストを配り、ひと月をかけて読み、感想を話しています。個人的な読書は自分の好きなジャン



ゆるやかにつながり、本を楽しむ

ルや好きな作家に偏りがちなので、読書会のメンバーが選んだテキストはワクワクして読むのが楽しみだと、みなさんが口にします。そして一人ひとりの感想を聞く時間がやはり読書会の醍醐味!と、これもみなさんの一致するところ

です。そのほか、毎年新年会を開き、桜の季節にはお花見を、秋には小旅行を、また地域のボランティアにも参加しています。原田マハ

著『たゆたえども沈まず』や『美

しき愚かものたちのタブロー』を取りあげた際は、国際西洋美術館へ松方コレクションを思いを新たに鑑賞してきました。

コロナ禍においてはその月の選

本担当者が各自の家へ配本。ひと月後、各自が感想や近況を記したメモを本にはさみ、担当者宅へ返本。そのようにしてコロナ禍を凌ぎました。

これからのゆるやかなつながりを大切に、本がいざなう多様な世界をみんなで楽しみたいと思っています。

(文責＝持齋弥生)

佐久市立中央図書館 音の会

代表者 常田 豊子

長野県佐久市

〈推薦〉

長野県読書推進運動協議会

2007年、右も左もわからな

いまま、デイジー図書を作りあげることだけを考えて、音の会は活動を始めました。

当時はサビエや国会図書館へデイジー図書を上げることなど思いもせず、でも「せつかく作つたのだから、とにかく聞いてもらおう」

と、佐久市立図書館でのデイジー図書の貸出が始まりました。研修として録音している信濃毎日新聞のコラム「斜面」も、一週間ごとにCDを送って聞いてもらいながら、「内容が伝わる読み」を追及してきました。

自分が音訳する本を手にして、場面の雰囲気やどう伝えよう、登場人物の読みわけをどうしようなどと、調査をしながら考えていく時の期待感。何か月も格闘して完成したときの達成感と多少の後悔。だれもがそんな思いをしなが

ら製作したデイジー図書は、ようやく150タイトルを越えました。

夢中で過ごしてきましたが、あるとき、自分たちの活動が、そもそもデイジー図書が世の中にはほとんど知られていないという現実が見えてきました。それは、デイジー図書の登録人数や貸出冊数が伸びていないことからはつきりしました。ある人は言います。「今は読み上げ機能もあるし、少しお金を出せばプロの朗読で楽しめる時代だ」と。

そこで私たちは反省しました。人の声で録音するよさも、公立図書館で貸し出す意義も、ましてやデイジー図書の存在さえも知られていないのは、自分たちが作る努

視聴会は音の会とデイジー図書を
知ってもらおう機会



力をするばかりで知らせる努力をしてこなかったからではないか。

なんとかしたいと、まず取り組んだのが、デイジー図書の試聴会とそれを新聞記事として取りあげてもらうことでした。試聴会は市内の各図書館で行い、はじめてデイジー図書を知ったという人ばかりで、それなりの手応えがありました。しかし、それよりも大きかったのは、メディアに取りあげられたことで、入会希望の方々が現れたことでした。仲間が増えることはとても大きな励みです。

私たちはさらに、「知らせる」という視点で活動を広めました。ご縁のできた他団体との交流で刺激を受けて、会のロゴも作ってチ

ラシを作製。病院OBの会員の提案で、「病院祭」という人出の多い会場での試験会。活動資金捻出のためのバザー出店。今はのぼり旗を作ろうと計画しています。

本を読みデジジ―図書を作るだけでなく、活動のはばを広げることで会そのものが元気になったように感じています。それにしても、人生を重ねた仲間たちの随所に見せる多才ぶりに驚くばかりです。

これからも、仲間とともに、力をあわせて活動を続けていきたいと思っています。

沖縄市立図書館読み聞かせボランティア ゆいゆい

代表者 石川里代子

沖縄県沖縄市

〈推薦〉
沖縄県読書推進運動協議会

2001年度に沖縄市立図書館が開催した「絵本の読み聞かせ講座」に参加した受講生を中心に、読み聞かせボランティアが結成され、24年目を迎えました。

沖縄には古くから助けあいと結びつきを意味する「ゆいまいー」ということばがあります。この「ゆ

いまいー」にちなみ、おたがいが助けあいの気持ち大切に、子どもと本を結びつけ、よりよい読書環境づくりに努めるという思いをこめて、2006年にグループ名を「ゆいゆい」と名づけました。沖縄市立図書館のボランティアグループとして位置づけられ、図書館担当職員1名とメンバーから世話役1名が、研修会などを取りまとめ、現在は12名で活動しています。

主な活動は、毎月第3土曜日に行われる「定例おはなし会」を毎月2名で担当しています。毎月第1水曜日を「図書館ボランティア研修会」にあて、その月のおはなし会の当番がリハ―サルを兼ねて実演を行い、読み方や演じ方について意見を出しあい、よりよいおはなし会ができるように研修を行っています。

また、図書館主催の「夏休みブックフェスティバル」や特別支援学校からの依頼による「訪問おはなし会」では、メンバー全員で手作りのペープサートや手袋人形などの実演ほか、さまざまな手法でおはなし会を行っています。

ひとりでも多くの子どもたちに本を手渡すことや、おはなしを届けることを喜びとし、ひとりでも

喜んでくれる子に出会えることが継続の糧となっています。また、メンバー全員がこの会の取り組みが好きで、気軽に情報交換しコミュニケーションを図り、楽しい雰囲気の中で協力しながら活動を続けています。

このたびは、すてきな賞をいただき、まことに光栄に思います。ゆいゆいに関わってくださるみなさまに心から感謝申しあげます。今後も初心を忘れず、基本の読み聞かせの手法をおさえつつ、うちな―ぐち（沖縄のことば）での読み聞かせや小道具を取り入れたおはなしの世界を子どもたち、および、大人にも届けていきたいと思っています。



絵本と沖縄のことばを子どもたちと結びつけた

■矢祭もつたない図書館

手づくり絵本募集中

福島県矢祭町では、「第18回矢祭もつたない図書館 手づくり絵本コンクール」の応募作品を7月1日(水)～9月20日(日)の期間、募集している(当日消印有効)。

このコンクールは、「自然・友情・希望がいつぱいつまった手づくり絵本」をテーマに、全国から募集優秀作品を表彰するもの。高校生以上の「一般の部」と、中学生以下の幼児・児童・生徒が家族と一緒に制作した「家族の部」がある。

最終審査は、柳田邦男さん(ノンフィクション作家)、あべ弘士さん(絵本作家)、矢祭町長の3名が担当。最優秀作品(各部門1点)は、製本され、受賞者住の都道府県立図書館・市区町村立図書館と矢祭町内小中学校・図書館などに配布される。

詳しい応募要項は矢祭もつたない図書館(<https://mottainai-toshokan.com>)まで。



第17回の家族の部最優秀賞「お庭はレストラン」

事務局よりお知らせ

●『読書推進運動』お届け時期について

機関紙『読書推進運動』次号693号(2026年8月15日号)は、当事務局、印刷会社、発送業者の夏期休業により、8月20日出来、それ以降の発送となります。

●読書推進運動協議会 事務局 夏期休業のお知らせ

8月10日(月)～14日(金)その間にメール・ファックスなどいただいたお問い合わせは、17日以降、順次お答えいたします。

●「敬老の日読書のすすめ」書目およびリーフレットについて

機関紙『読書推進運動』705号での発表に先立ち、当協議会ホームページにて7月21日(火)より書目リストを掲載いたします。展示やフェアなどの準備にご活用ください。リーフレットは例年同様、8月上旬に出来予定です。

みなさまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご了承のほど、どうぞよろしく願いたします。

■大阪国際児童文学振興財団

昨年出版された絵本・児童書
250冊を一気に紹介！

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団（IICLO）は、7月25日（土）に、オンライン講座「2025年に出版された子どもの本から」をリアルタイム配信する。また、同講座のアーカイブ配信を、8月7日（金）～12月25日（金）の期間（参加申し込みは12月21日（月）まで）、行う。

講師は、土居安子さん（大阪国際児童文学振興財団 理事・総括

専門員）。2025年に日本国内で発行された絵本・児童図書約250冊をテーマやジャンル、年齢別に紹介し、現在の子どもの本の傾向について考える。対象は、子どもに本に関心のある人。

紹介図書の書誌情報と簡単な紹介文のリストも用意されるので、アーカイブ配信を見直ししながら、後日ゆつくりと選書の参考にすることもできる。

■東京・学校図書館スタンブラー

年々参加校が増加！
夏休み恒例の学校図書館めぐり

7月18日（土）～8月31日（月）の期間、東京都内の学校（有志）で、『第13回 東京・学校図書館スタンブラー』（主催：同実行委員会）が開催される。

このスタンブラーは、夏休み期間に、小中学生や保護者、地域住民に学校図書館を開放すること

で、学校図書館への理解を深め、読書推進、各校の魅力発信につなげることを目的としている。本年

は37の学校と、東京都立多摩図書館が参加する。

参加校は期間中、数日間学校図書館を公開し、展示やワークショップなどのイベントで参加者を迎える。参加者は各校でスタン

プを集めると、ブックガイドやおしり、シールなどがもらえる。

昨年は、1452名が参加。実行委員会が行ったアンケートによると、リピーターも多く、夏休み

参加には、申し込みと参加費が必要（リアルタイム配信参加者は、追加料金なしでアーカイブ配信も視聴可能）。IICLOホームページで申し込み方法を確認できる。

なお、リアルタイム配信は「Zoom」を使用。アーカイブ配信は動画配信サイト「Vimeo」（事前の会員登録などは不要）で配信される。各種設定は申し込み後に案内される。

●IICLOホームページ

<http://www.iiclo.or.jp/>

のイベントとして認知されてきたという。学校説明会の日にあわせて実施する学校も多くあり、スタンブラーを知らずに来た人が後日、他校の図書館公開にも参加したという事例も出てきた。また、図書館関係者の参加も多く、なかなか研修の機会が持てない学校司書にとっての学び、横のつながりを作る場としての役割も果たしている。

参加校一覧、各校の公開スケジュールと当日イベントは、東京・学校図書館スタンブラーホームページ（<https://tokyohslib.ehoh.net/>）を参照のこと。

事務局報告（6月）

- ・2日＝第59回 造本装幀コンクール下見会（出版クラブ）
- ・3日＝第59回 造本装幀コンクール審査会、読書推進運動協議会賞を選出
- ☆8日＝機関紙『読書推進運動』703号入稿
- ☆9日＝機関紙『読書推進運動』703号責了
- ☆10日＝『第80回 読書週間 ポスターイラスト募集』締め切り
- ☆11日＝「2026 敬老の日 読書のすすめ」事業委員会協議締め切り
- ・11日＝子どもの読書推進会議 第1回総会 案内送付
- ・13日＝親子読書地域文庫全国連絡会記念講演会 出席（国立オリンピック記念青少年総合センター）
- ☆15日＝機関紙『読書推進運動』703号出来
- ☆16日＝「2026 敬老の日 読書のすすめ」集計結果を事業委員に展開
- ・16日＝子どもの読書推進会議 2026年度 第1回 幹事会 開催
- ☆19日＝2026 読書週間 ポスターイラスト選定事業委員会 案内送付
- ☆22日＝2026年度 定時総会・第2回理事会 開催
- ☆24日＝「2026 敬老の日 読書のすすめ」掲載書目確定
- ☆26日＝2026年度 第2回 常務理事会 案内送付
- ☆26日＝定時総会議事録承認 押印完了。役員変更登記依頼



読書推進運動
協議会 X
(旧 Twitter)

●編集部・事務局の
ひとこと

●まったくの私見であり、好みの問題でもあるのだけれど、かまぼこは西日本のものが好きだ。箱根、小田原方面の有名店なども歯ごたえはいのだが、どうも味が上品、淡泊に過ぎるように思う。西日本のものは魚の旨味をしっかり感じられる気がする。大阪や和歌山のものなど、スーパリーやデパート地下で見かけると、つい買ってしまつて銘柄がある。

●新作が出ると購入する作家のひとりである宮本輝さんの『湾』が6月に刊行され、さっそく読んだ。京都府の舞鶴が舞台であり、港町に抱かれて成長する姉弟の人生をあまりやかに、情感たっぷりに描いた物語。今回も堪能させていただいた。

●作中、舞鶴のかまぼこがすばらしく美味いという話が出てくる。そう、舞鶴は私が育った街のおとなりで、祖父母の住まいもあった。親がときどきそのかまぼこを買ってきたことを思い出す。小説に触発されて、なつかしい少年時代の情景のなかに私も帰ることができる。

●舞鶴のかまぼこは、新鮮な地元近海物の魚のすり身を4割以上使用するなどの条件を守って生産されてきた地域ブランドだそうだが、かつて多くあった生産者は減少し、現在3社ほどになっているとのこと。そのうちの1社がネット通販をされているのを発見がまんできなくなり購入する。日常使いの定番とちよなり高級ラインと思われる2種を食べ比べてみる。これこれ、この味、どちらも地魚の旨味が口いっぱい広がる。かまぼこは舞鶴にかぎる。（佐々木）